

図11 「避難解除されれば帰村」回答世帯が望む支援 (単位：%)

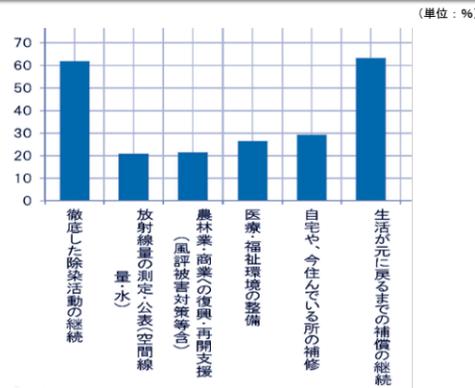


図12 「放射性物質の下がり具合をみて帰村」回答世帯が望む支援 (単位：%)

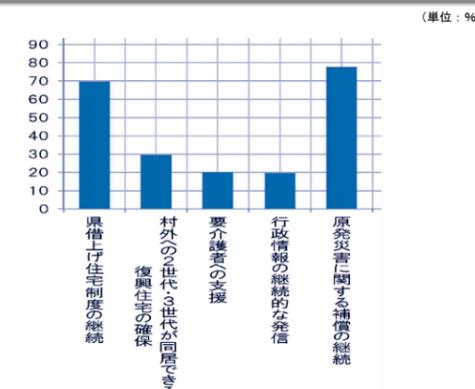
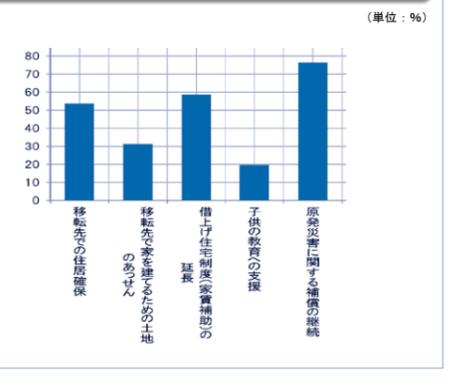


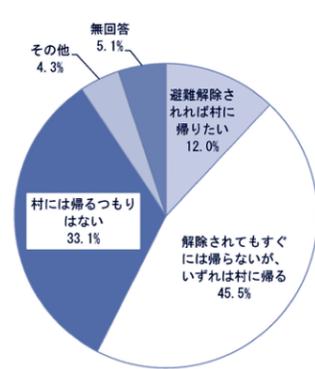
図13 「村に帰るつもりはない」回答世帯が望む支援 (単位：%)



●アンケート調査の結果は、村のホームページで公開しています。



図10 帰村について



6. 帰村について

帰村についての考え方は、「避難解除されれば村に帰りたい」が12・0%、「解除されてもすぐには戻らないが、いずれは村に帰る」が45・5%、

「村に帰るつもりはない」が33・1%と回答しました。(図10) 「村に戻りたい」と回答した世帯が求める支援では、「生活が元に戻るまでの補償の継続」が63・3%、「徹底した除染活動の継続」が61・9%と、双方とも6割を超え特に高くなっています。(図11) 除染による安全な生活の確保や、生活基盤を安定させるた

めの補償の継続を求める声が多く出されていました。「避難解除されてもすぐには戻らないが、放射線の下がり具合などを見て、いずれは村に帰る」と回答した世帯では、「原発災害に関する補償の継続」が77・8%と最も高く、次いで「借上げ住宅制度の継続」が69・7%となつています。(図12) 避難解除後にすぐに帰村しない場合でも補償や居住場所の支援の継続が求められています。

「村に帰るつもりはない」の回答では、「原発災害に関する補償の継続」(76・4%)、「借上げ住宅制度の延長」(58・6%)、「移転先での住居確保」(53・7%)などとなつています。帰村しない場合も、補償や居住場所の支援の継続を求める意見が多く出されました。(図13) 村ではこのアンケート結果を参考に、今後「戻りたい人」「戻りたくても戻れない人」「戻らない人」それぞれに寄り添う支援策を進めることとしています。

図6 村内自宅への帰宅状況

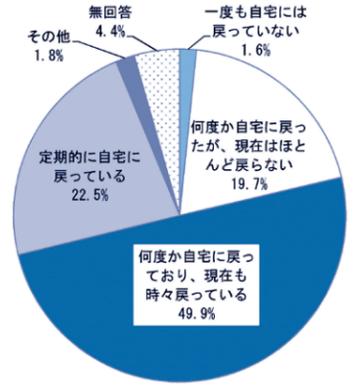


図7 子どもたちの教育について (単位：%)

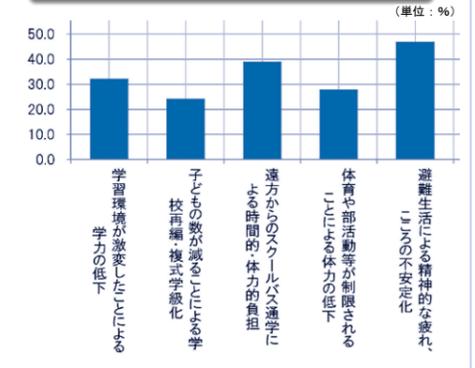
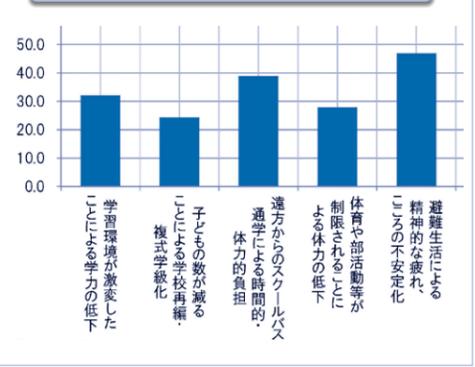


図8 教育環境への要望



4. 子どもの教育や通学について 子どもたちの教育について心配なことについては、「避難生活による精神的な疲れ、こころの不安定化」が46・9%と最も高く、次いで「遠方からのスクールバス通学による時間的・体力的負担」39・0%、「学習環境が激変したことによる学力の低下」が32・1%となっています。(図7) 避難生活による生活環境や教育環境の大幅な変化が、子どもたちへの精神面、体力面、学習面に影響を及ぼすことを不安視する傾向が示されています。



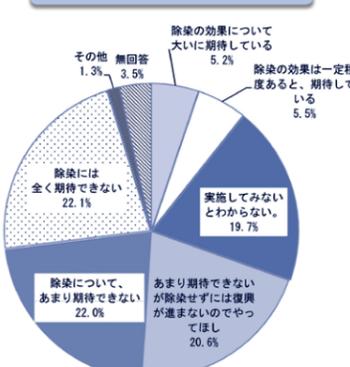
▲仮設小学校の開校式で村民歌を歌う子どもたち

村に対する教育環境への要望は、「仮設住宅・園舎近くに復興住宅の建設」が28・4%、「学童保育、預かり保育などの保育施設の整備」が26・6%、「奨学金など就学援助制度の充実」が22・9%

の回答がありました。また、「他の学校に転校した子どもたちとの交流」が22・5%で、通学のしやすい住環境、保育施設の充実、就学援助制度、子どもたちの就学の負担を軽減する支援策とともに、避難により離れたようになった子どもたちの交流の推進を望む声が多くなっています。

5. 村の除染について

図9 除染について



「村に帰るつもりはない」の回答では、「原発災害に関する補償の継続」(76・4%)、「借上げ住宅制度の延長」(58・6%)、「移転先での住居確保」(53・7%)などとなつています。帰村しない場合も、補償や居住場所の支援の継続を求める意見が多く出されました。(図13) 村ではこのアンケート結果を参考に、今後「戻りたい人」「戻りたくても戻れない人」「戻らない人」それぞれに寄り添う支援策を進めることとしています。



▲昨年行われた農地除染実験 (伊丹沢)